



島根県 / 川上 登 (38歳)



9年振りに復活を遂げたBMW顔面仕様の川上第のローレル。ドレスアップのテーマはユーロスポート。前後エアロはワンオフで、今風のあしらいを注入。フロントはミニカー用のウイングカーがポイント。リアは取り外し可能なデューザーがウリ。フェンダーは今年で18年目となる発砲ウレタン製のプリスター。「全然壊れないです」。そして、今後はアウディのテストも取り入れていくそう。

島

根原で有名な自作オーナーと言えは川上兄弟。お兄ちゃんは17マジエ乗りで、ここ数年、メキメキと力をつけているので知っている人も多いはず。そして今回、がばいカップで超久々に、弟のローレルがデビューしましたよ。

「結婚して子供が4人でできて、それもあって9年ほど休憩していたんですが、また、大好きなクルママイジリができるようになりました(笑)」。ホンマ、お帰りに感じてですね。

9年間も休んでいたなら、イベントにも来にくくなるもんだけど、お兄ちゃんも頑張っていたお陰で、ちゃんと居場所があった。だから、まずはお兄ちゃんに感謝。そして、4人も子供がいるのに、VIPの世界に戻してくれた嫁にも感謝ですね。



がばいカップ恒例のカバーカーグランプリ。表紙歴のある有名車が勢揃い。投票は各車の目の前に置かれた箱にコインを入れる仕組みで、何ともえない緊張感が。

ティ。そこは今回も継承してきましてね。「変えてきたのはフロントバンパーで、LEDデイトライトや後付けリッツなど、自分なりに今風な雰囲気を取り入れてきました」。リアはBMW御用達のレムスのマフラーを入れて自慢。エアロはフロント同様のワンオフなんですけど、あれ、デビューなのに割れてるやん(笑)。

「え、私が乗りたいんで(笑)」。この会話で福井家の夫婦間の力関係がよく分かりました(笑)。この51フーガで僕が一番いいなって思ったのはオーバーフェンダー。他のフーガよりも迫力があって大きく見える要因は、間違いなく、このオバフェンのお陰。あと、ホイールのチョイスも秀逸で、12・5Jというサイズも凄いいし、パリッとしたブラッシュドドリムも存在感に拍車をかけている気がしますね。



当日は天気も良く、会場はオーナーたちの笑顔でいっぱい。がばいカップではチャリティーイベントも開催。その1つが大盛り焼きそばの早食い大会で、エイムゲインの伊藤チーフも張り切って挑みましたが、結果は撃沈(笑)。

思いました。これからはずっと、VIPを乗り続けてくださいな。3台目は大石クンのIS。ファイブスタの履きこなしが最高。ファイブスタを取めているオバフェンは、昨年末に完成したそう。

「サプライズ訪問」の巻



僕の最近のマイブームがサプライズ訪問。ふいに行き行って驚かせる(笑)。その驚いた顔が堪らないです。ということで、がばいカップの次の日、福岡の松本サン(オートファクトリーマツト)と足立のお兄ちゃんの所に行き参りました。2人とも「えええ〜!!」って(笑)。昔から仲良しなんで、数秒もすると色んな話で大盛り上がり。楽しかったなあ。次はアナタの所へ行くかも? 急に行っても冷たくないでね♥

Kブレイク賞はファイブスタを見事に

「くつきり系よりも自然な感じのものが好きなので、なるべく上の方から膨らませてもらいました」。ファイブスタはフェンダー製作を機に、お兄ちゃんから譲り受けたそう。色はマットブロンズ。これは初期モデル限定の色で、今はない稀少なカラーなんです。ファイブスタは僕が初めて作った3ピースホイールで、凄く思い入れがあるんです。それを今からの若いオーナーが気に入って履いてくれるっていうのは、ホンマに嬉しいですね。

「大石クン的には総張り替えしたばかりの内装も見て欲しい部分。白基調で、黒をポイント使い。「白革なんですけど、エビ調、パンチング、ダイヤキルトって感じで、素材を使い分けて立体感を出したのが自慢。自分的には100点満点です」。ビックリして欲しくて、おおもりの

履きこなした大石クンのISに決定!

「ジャッキアップして作業している時に滑ってしまっ...」。これは確実に長いブランクのせいですね(笑)。9年間、我慢した分を取り返すように、これからは存分にVIPを楽しんでくださいな!



兵庫県 / 福井 友衣



まさか女性が乗っているとは想像もなかった。超男前な51フーガ。フロントバンパーは純正+バルファムのニコイチ。フォグはアテンザ用に交換して個性を出している。自慢のオーバーフェンダーはF5・R10センチ。ホイールはワークエモーションT7Rの20インチで、リアには一番太い12.5Jを投入している。大林サンはワンオフウイングも絶賛。「フワッと跳ね上げた感じが、このフーガに凄くマッチしていますね」。

「いや、旦那です。実は昔、旦那もシマに乗っていたんですよ。今は我慢して貰ってるんですけど」。旦那を降ろして自分が乗る(笑)。

9月23日(日)に広島県で開催された、KCスタイル主催の「がばいカップ」に参加しました。会場はレベルの高いセダンで溢れ、見応え十分。また、初めて見かける若いオーナーたちの姿が多かったのも好印象。今月の『おおもりのごはん』は、その「がばいカップ」で発見した3台のクルマをご紹介します。

おおもりのごはん



次はアナタの所へ行くかも!

K.BREAK Kazuki Ohbayashi 大林一樹 Kブレイク代表。写真をご覧頂ければ分かると思うが、武器は眩しい笑顔。現役時代は赤マジェに乗り、その名を全国に轟かせた。



島根県 / 大石 健士郎 (23歳)



シンプルスポーツ仕様の10IS。エアロはエイムゲインの純VIPで統一。自然に膨らませた鉄板溶接オバフェンも秀逸。そこに取めたホイールはKブレイクのハイブリッドファイブスタで、サイズは19インチF10.5J±0・R11.5J±13。お兄ちゃんから譲り受けたそうで、そのお兄ちゃんの元愛車のマークIIは2014年7月号に掲載しております。「次の目標は社外ブレーキです。今後ビッグセダンに負けないように頑張ります」。

投稿募集中 「僕もKブレイクの大林サンに愛車を評価して欲しい!」と思った方は、ぜひ編集部まで写真とアンケートを郵送してください。大林サンが愛情をたっぷり添えて、キミのクルマを全国の人に紹介してくれますよ。